

平成26年度 行政評価事業別シート

	実計対象 ■	評価対象 ■	新規 □	完了事業 □	ゼロ予算事業 □	担当者	永井隆広
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3414
事務事業名	4164 産地ブランド推進事業						
所 属	150100 産業振興部・農林課						
施 策	05012200 農業の活性化						
予算科目	会計	01 一般会計					
	科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費					
	事業	060000 産地ブランド推進事業					
事業目的				事業概要・効果			
農業産出額が逓減し続ける中、須坂産農産物のブランドイメージの向上、新たな農産物のブランド化が求められているほか、グリーンツーリズムなど新たな農業の展開を想定した取組みが必要。				高付加価値型農業を推進する上での基本となる課題として、安全安心への取り組みを据え、その上に立って、振興果樹の生産拡大による産地ブランドの構築、グリーンツーリズム・地産地消等の推進もって、ブランド化がすすむ。			

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成22年度 実績	平成23年度 実績
新農業創生活動事業補助 4団体 276千円 新品種導入補助 100万円 エコファーマー認定者1,076人	新農業創生活動事業補助 3団体 179千円 新品種導入補助 150万円 エコファーマー認定者1,076人 農業体験プログラム参加者 175人
平成24年度 実績	平成25年度 実績
新農業創生活動事業補助 1団体 100千円 新品種導入事業補助 150万円 エコファーマー認定者1,063人 農業体験プログラム参加者 191人	新農業創生活動事業補助 1団体 100千円 新品種導入事業補助 150万円 エコファーマー認定者946人 農業体験プログラム参加者 220人
平成26年度 予定	平成27年度 予定
新農業創生活動事業補助 1団体 100千円 新品種導入事業補助 150万円 エコファーマー認定者約1,000人 農業体験プログラム参加者 300人	

指標名	エコファーマー認定数				
算式					単位 人
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標	1,041	1,043	1,046	1,048
	実績	1,076	1,063	946	
指標選定の理由	安心・安全な農産物を提供する農業者増加を図る。				
最終年度目標の根拠	平成21年度現状値1,039人から1%増を目標とする。				
指標名	グリーンツーリズム体験プログラム参加人数				
算式					単位 人
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標	428	481	534	587
	実績	175	191	220	
指標選定の理由	農業と観光が連携することで、体験交流型農業の推進を図る。				
最終年度目標の根拠	200人弱程度で推移している参加者だが毎年100人程度増を目標とした。				
指標名					
算式					単位
年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
目標値	目標				
	実績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成25年度 決 算	平成26年度 予 算
事業費		5,728	12,103
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	293	6,134
	地方債	0	0
	その他	5	15
一般財源		5,430	5,954
人員数(人)	正規職員	1.0	2.0
	嘱託職員	2.0	1.0
	臨時職員	0.0	0.0
人員コスト	正規職員	6,858.0	13,716.0
	嘱託職員	5,450.0	2,725.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	12,308.0	16,441.0
市民一人当たりの経費		0.3	0.5
総額		18,036.0	28,544.0

(単位：千円)

平成25年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	90	北信州ワインフェア謝礼80,000円 ぶどう祭りプレゼント品代ほか9,410円
11節 需用費	281	消耗品費87,532円 印刷製本費 販売促進用品ほか193,200円
13節 委託費	294	発泡ワイン醸造者育成事業委託料293,332円
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	2,385	新農業創生活動補助金100,000円 果樹新品種導入事業補助金1,500,000円ほか785千円
その他	2,678	

(単位：千円)

平成26年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	106	イベント講師等謝礼106,000円
11節 需用費	436	消耗品費100,000円 食糧費20,000円 印刷製本費216,000円 修繕料100,000円
13節 委託費	3,134	発泡ワイン醸造者育成事業委託料3,134,000円
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	5,645	果樹新品種導入事業補助金1,500,000円 園芸産地育成事業補助金3,000,000円ほか1,145千円
その他	2,782	

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	普通
評価コメント	首都圏を中心とした各種イベントへの参加は、交流人口への即効性のある結果には結びついていない。伝統野菜等については各種イベントに参加することで、徐々にではあるが、認知度が増し需要が増えている。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	現状体験交流プログラムの参加者数が目標に達していない。 昨年度から学生の修学旅行プログラムなどを取り込む企画が計画されるなど新たな取組みを始めた。 平成26年度は、既に通常の体験交流プログラム以外に330人の中学生が自然体験授業の一環でりんごの摘果作業に訪れてるなどの事業内容が追加となっている。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	変わらない
評価コメント	僅かでもコスト削減につながるようデジタル化等を進めている。 イベント出店料については、受益者負担の考慮について検討をする。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

取組み事業がすぐに数値化され実績として目に見えにくい。
事・物・人が上手にかみ合うことが出来れば事業効果が向上する。
次度事業では、前段の調整や目的の明確化を確認して事業に取り組む

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）	次年度以降の方向性	簡易な改善（拡大）
総合評価コメント		2次評価コメント	
<p>攻めの姿勢を持った農業者を積極的に支援し、儲かる農業を目に見える形にすることで、農業全体の活性化を図る。</p>		<p>意欲ある農業者の育成支援、生産者がうるおう農業経営支援など、関係団体等との連携を図り、販路拡大、新品種導入支援など農業者支援に一層の充実・支援体制を図る。</p>	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	